

フードバンク + 隅田川医療相談会

小さな声を集める・伝える



2025年6月吉日

発行：一般社団法人 あじいる

つぶやき

2025 Vol.13 [NEWS]

一般社団法人 あじいる

Unsung HERO

道路もビルも
地上に見えないライフラインも
称賛されることのない労働者の手で
創られた。真のヒーローはあなた。

巻頭 その後の報告

米がない！
緊急事態宣言

VOICE 緊急団体アンケート
米は主食！

レポート

百姓一揆！
農家の声

始動！アート活動

山谷と表現と居場所

葬送 旅立ち

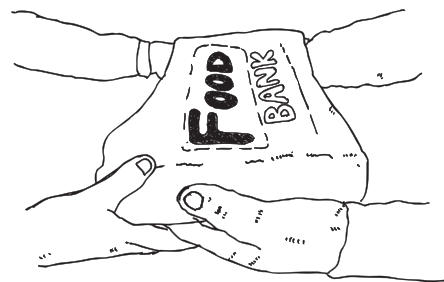
自分を貫く
仲間を送る

視点 医療ブースから

誰もが医療に
つながれる場を

活動報告 2024.10→2025.3
隅田川医療相談会+フードバンク
会計報告

米がない！ 緊急事態宣言



3月の配達を終えた後、2台の米の低温冷蔵庫の中に残っている米は、わずかばかりになった。でもこの時は、又買うしかないかなあと楽観的に考えていたように思う。世間では米の価格高騰が話題となり、政府の備蓄米放出が話題となっていた。そして、これまで足りない時に米を買っていたつてを何件かあたってみたが、全てないという返事。そこで遅ればせながら、事態の深刻さに息をのむ思いだった。

止まった米の配送と新聞記事

2000年から毎月1回、登録団体に米を配送し続けてきたフードバンク。25年間で初めての事態だ。米の寄付は激減し、お金を出しても買えないとなると、もう手の打ちようがない。やむなく4月分の米の配送は中止。

しかし、手をこまねているわけにはいかない。何もしなければ、フードバンク活動を中止せざるを得ない。

そこで、各登録団体に「緊急事態宣言」を出し、それを外にも発信していこうとなる。それを受け、毎日新聞と東京新聞が取材に訪れ、紙面に掲載された。

全国紙にのったことで、たくさんのうれしい反応があった。米を買って送ってくださる方、代替品として乾麺等を持ってきてくださる方、多額のカンパ金を振り込んでくださる方、やっぱりフードバンクはそうした多くの支援の人々に支えられているのだと改めて感じた。

又、農水省の職員が訪ねてきた。実は2月に農水省からフードバンクへの備蓄米の助成があることは、私たち

も知っていたし、検討もしてきた。しかし、応募要項にある「食育のため」や「行政との連携」という点で、なかなか難しいという結論に達したのだ。「年に2回申請できるので、次はぜひ申請してほしい。あなたたちが引っかかっていた点も全然大丈夫です。ただし、次は7月くらいかも」とのこと。そんなことなら早く言ってよ、私たちは「今」困っているんだよ、新聞記事になったから焦ったんでしょ、心の声はそんなところか。

命と米をつなぐ

フードバンクが米を送れないということは、登録団体が困っているということだ。アンケート調査をしてみると、各団体から悲鳴のような声が聞こえてくる。難民支援関係は、毎月の量も多いので、直撃を受けている。何の制度もない人々は、民間の力に支えられてその生活を維持しているのが現状だ。(国は何もしない)主食の米がなくなれば、その命を繋ぐことさえ難しくなる。

また、シェルターや施設も良心的にケアを充実すればするほど、赤字になっていくのが現状だ。子ども食堂は独自に備蓄米の助成があるが、地域でやっている小さい団体は、その申請もハードルが高くなる。そうした団体を支えてきたのが、フードバンクだ。

現在、政府は備蓄米の放出ということで動いているけれど、米の価格は上がり続けている。前年の2倍以上だ。ちょっと前まで、米はあると言い続け、備蓄米を出せば安定すると言ってきたけど、それもすっかり影を潜め

4/1米の緊急事態宣言後5/10までの間に
寄せられたカンパ報告です

寄付:569,452 円
米 :823 Kg



た。(4月現在)本当はないんじゃないの?という声が、
大きくなっている。

こうした状況で最も打撃を受けるのは、もちろん下からだ。難民申請中の外国人を始めとした制度の外に置かれている人々、そして生活保護制度があっても、日々の米を始めとした物価高騰の中で、保護費は2013年度以降引き下げられたそのままだ。引き下げ理由はデフレじゃなかったっけ。賃上げなんてどこの世界の話?そんな貧困層ほど打撃を受けている。格差はますます大きくなり、貧困は広がっていく。この先が見えない時代の中で、私たちはどうすればいいのだろう。

冷蔵庫を充たす力

今回の問題で、私たちは改めて多くの方々の支援の力を感じてきた。空っぽだった米の冷蔵庫は、現在600kgを超える米が集まった。また、米を買うルートを探してくださる方もいる。5月の配送は何とか再開できそうでほっとしている。

フードバンク事業は単に米を登録団体に提供することではない。フードバンクの米を利用している団体の声を送ってくださっている方々に届けること。そしてそれを応援してくださる方を増やしていくこと。そうした民間の支えあいの力を社会を動かす力に押し上げていくことこそが重要なのではないかと思う。



文・荒川 茂子

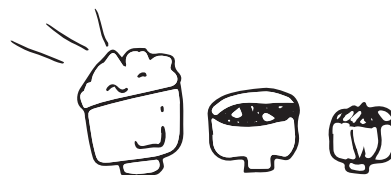


VOICE

米は主食！ 緊急団体アンケート

米の配送が停止し、一番大変なのは各団体を通じて食事が確保されている野宿者・子どもたち・外国籍の方・母子家庭・年金世帯の方等…です。お米が無いなら、代替品でもいいから何とか食べるものを確保しよう！と各団体にアンケートを行いました。

- ① お米の使い道
- ② お米の代替品
- ③ お米の価格高騰により、どんな影響があるか



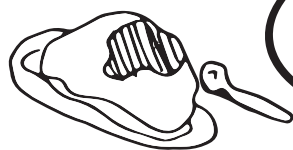
16 団体から回答が返ってきて、お米だけではなく、様々な商品が値上げされていることが活動に直撃し、さらにあじいるのお米が無いことで、活動を継続できるかどうか不安との声が多くありました。

また、お米の代替品については、パスタが一番使い勝手が良いそうです。

その次がうどん(乾麺)、その次がそば(乾麺)とインスタントラーメンでした。

何もかもが値上げされ、苦しい生活が続くとは思いますが、どんな困難な状況の中でも「食べて生きていこう」と思えるように、食材とともにメッセージを込めてお渡しできればと考えています。

アンケートに協力してくれた団体の声です！



子どもにおなか満足の
食事を用意するのが
難しいと思う

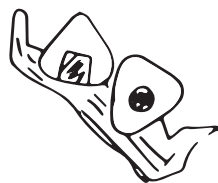
昨今の食材高騰は、運営を圧迫しています。
あじいるさんからいただくお米は、
その食卓を支えるため大きな役割を
果たしてくださっているので
とてもありがたいです。
お米は主食だからないと困る

要支援家庭への継続的な
食糧支援が困難。
子ども食堂での食事提供が困難

毎月各家庭 100 件に
米 4 キロ渡していたのを
今は 3 キロにしています

外国人にとってもお米は主食になっている方が
多数です。これまでは、お米とわずかなおかずとで
食生活をやりくりしている方も少なくありません。
その主食さえ確保できなければ、命に関わって
くるのではないかと心配しています

お米の提供がなくなった場合は、
炊き出しの活動ができなくなります。
今のところ寄付金で賄っていますが、
そのお金がなくなった時には
活動の中止も考えています



活動の命綱なので
本当に困ります。
お米の再開を
切望いたします

アフリカと中東からの方々が中心で、
みなさんの主食がお米の為、更に在留資格が
まだ不安定で働ける許可のない人々が殆どの為、
何はななくともお米だけは必要です



引き続き皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

レポート

百姓一揆！ 農家の声



百姓一揆+ガザの停戦デモに
参加の親子づれさんメッセージ



ホラ貝の音が響き渡り、歓声に包まれてトラクターが動き出した。3月30日、東京都心にある青山公園で、令和の百姓一揆が始まった瞬間だ。3200人の集会参加者も思い思いのメッセージを掲げて歩き始める。ブランドショップが立ち並ぶ表参道を通して若者の街、原宿へ。人波に乗って、都道府県の名前が書かれた47本の幟(のぼり)も進んで行く。それぞれ持っているのは、その地域からの参加者だ。

「農家の時給は10円」「農家の平均年齢は69歳」「子どもに継がせようとは思えない」「欧米並みの所得補償が必要です」農家の窮状を訴えながら行進する30台のトラクター。遠くは長崎からの参加だ。そもそも長距離を走るものじゃない。整備は万全でも途中で動かなくなるリスクはある。それをピカピカに磨き上げて東京まで来たのは、農家の声を聞いて欲しいから。消費者に聞きたいから。農家辞めてもいいですか、と。

農業人口116万3500人。今の日本には人口の1%しか農家がない。1%が作る農産物を99%が食べている。その1%が辞めたら、どうなる？農業大規模化で解決しようにも、山が多い日本で大規模にやれる土地は限られる。食糧需要を満たすには、小さな農家も守らなきゃ。スーパーの店頭にかリフォニア米と国産米のブレンドが並ぶようになった。米を食べるのは止めたという声も聞く。でも、値段だけで決めていいのだろうか。農家の所得補償は、米や食料の安定供給を求める消費者のためにも必要じゃないか。

あじいるに米を寄付してくださる方々の中には農家

も多いし、この百姓一揆に参加している人もいる。そのひとりで「星の谷ファーム」の代表、天明伸浩(てんみょうのぶひろ)さんのお話がネットで公開されている。新潟県の実山町の棚田で、移住者を受け入れ一緒に米を作っている天明さん。大規模化の真逆だ。農業に携わる人が増え、住む人が増えれば地域が強くなると言っている。米の値上がりにオロオロしている私は、まさに天の声を聞いた気がする。米不足はパスタや麺類だけで解決できるものではない。農業だけを問題にしているのは解決しない。私たちがどんな社会で生きたいのか、子どもたちにどんな社会を遺していくのか、問われているのは私たちの生き方そのものだ。

3月30日は始まりだ。東京のほかに13カ所、北海道から沖縄まで全国各地で令和の百姓一揆が始まった。行進するトラクター、デモ隊の参加者に沿道から声援を送った人も1000人を超える。手にした一揆印の団扇を掲げながら。カメラやスマホで歴史的瞬間をとらえながら。農家の姿が子どもたちの目に、心に、これからも残りますように。 文・写真 鈴木香織

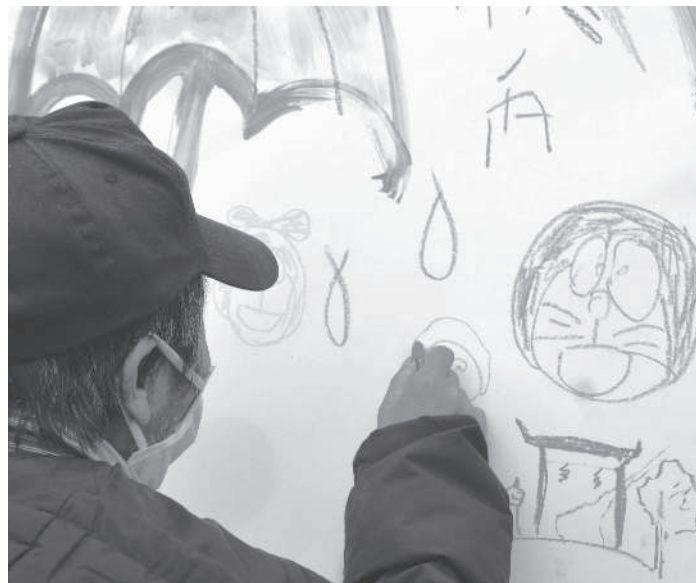


「星の谷ファーム」代表の話



令和の百姓一揆の映像記録

始動！アート活動 山谷と表現と 居場所



障害のある方々が“表現活動”を“仕事”にしていた前職の施設では、日中活動、利用者とその家族も含めた生活支援、作品制作、管理、展示、出展、キュレーション、グッズ開発、企業等とのコラボ、渉外担当を兼任していました。

分野を越えての協働こそが、あらゆる人を排除しない多様性を認め合う社会の在り方へ繋がると信じ、共に寄り添う現場の実践を土台に、時間外労働なんのその！休日出勤よろこんで！安い給料どんとこい！と一生懸命楽しく従事。一方で勤続が10年を過ぎた頃、自身の視野や感覚が狭くなるようにも感じていた。

障害のある方に限らず、社会的要因、課題、困難な状況の中にある方々と共に、表現活動をツールとして、多目的で多用途な“場”が作れないかと、ぼんやりと考えるようになる。久しく行けていない旅への思いも頭をよぎり、伝手も当ても計画もお金も無いまま退職。

50日間のテント無し野宿歩き遍路から戻り、だらだらぐだぐだもんもんと過ごしていると、路上生活者支援のボランティアに知人から誘われ、社会福祉制度や社会資源からこぼれ落ちた大勢の方々を目の当たりにする。明日は我が身だ。僕も色んな意味でこぼれ落ちている。

活動場所を山谷地域と定め、コロナ禍でも僕を受け入れてくれた、いくつかの団体でボランティアを始める。そして周囲に表現活動の大切さを勝手に力説しながら、山谷地域の現状を少しずつ学んで行く。

協力団体の居場所づくりプロジェクト、Champora(ちゃんぽら)のプロジェクトリーダーからの誘いを受け、アートに特化したセクション、“Champora 表現活動部”を、2023年12月より事務所のある東京 DEW、2024年2月より、あうん自由ひろばにて開始する。

あうん自由ひろばをお借りした背景には、ボランティアとして“あじいる”と“あらかわ子ども応援ネットワーク”の幟旗を立てたリアカーで、三ノ輪の商店街を

資源回収しながら一緒に練り歩く難民の仲間たちの存在が大きい。耐えがたい差別の中、苦しんでいる大切な仲間たちに是非とも表現活動に参加して欲しかった。

目指すもの

表現することは自身の思いや願いに気づくこと。決して特別な人だけのものではない。美術館や裕福な人にだけ許される特権でもない。障害のあるなし、生まれた国籍、環境、場所、性別、年齢、言葉、文化の違いは重要ではない。人と違うことで様々な差別、辛く悔しい思いをしてきた人たち。けれども表現に於いては、違いこそが価値や評価になり得る。

楽しい嬉しいだけじゃない、苦しみや悲しみ、抑圧された状況、分断、ネグレクト。様々な感情が溢れ、表出されて形になった時、人や物事、社会を動かす強い力となる。表現活動で生まれたものは、様々なジャンルを飛び越え、社会と繋がるツールになることを体験してきた。思いや願いを形にして社会と繋がること。





“Champora” (ちゃんぽら)

国籍、セクシャリティ、年齢、障害の有無等々、分け隔てなく交流できる、「反貧困ネットワーク」の居場所づくりプロジェクト“Champora”(ちゃんぽら)。

その中のアートに特化したセクションが表現活動部。様々な社会的事情、困難な状況にある方々が参加されています。会場は東京 DEW、あうん自由ひろば。

参加希望その他
お問い合わせは
小和田まで



表現することはセルフケアや自己実現だけでなく、困難な状況にある隣人の為でもあり、苦しんでいる人々を救う手立てとなる。表現することは皆で生きるために絶対に必要だ！

先ずは楽しもう！

活動では、絵画、イラスト、漫画、版画、書、詩、日記、切り絵、コラージュ、粘土、木工、立体、写真、刺繍、その他、犯罪！？以外は何でもあり！必ずしも制作する必要も頑張る必要もない。上手く描く必要もない。作品の優劣もつけない。絵画教室でもなく指導もない。決められたことをする作業でもない。先ずは気楽に皆で楽しく活動することをモットーに、お茶やお菓子、おしゃべりを楽しもう！活動時間内の入退出自由。自分のペースで！

あじいる表現活動部ついに始動！

表現活動は支援する側、支援される側といった一方的な関係性ではない。この関係性を僕にとっての大切なフェスティバル！隅田川医療相談会で生かせないか。フェスで行う実験的な試みとして、密かに絵画のワークショップの計画を練っていた。

僕が行う通常のワークでは、床や地面がキャンバスだが、医療相談会には足の悪いおじさんたちが多く。車椅子の方や子どもたちも参加する。そして屋外では強い風が吹く。構造は？素材は？強度は？どうする？フェスでのワークを想像しながらキャンバスの模型を作り、あじいる拡大会議で提案した。そして“あじいる表現活動部”が承認され、4月の実験的なデビューが決まった。

記念日

あうん自由ひろばの表現活動部員で協力して作ったキャンバス。無事に設営出来るだろうか。どんな感じのモノに仕上がるのか。誰も参加しなかったりして。期待と不安が大渋滞している僕は、朝から仲間とフェスでお配りする弁当の具になる大根を、訳の分からぬ形に包丁で

刻んでいた。雨の予報は一転、春なので安心出来ないけれど、天気も味方してくれそうだ。

部材の組違いはあったが設営は無事に終わり、イラン出身の部員 B さんに、一筆目を好きに描いてとお願いした。「アートを楽しもう！！」日本人より日本語達者な部員 B さんが先陣を切ると、何をやっているの？と、様子を見に来る方がばらりばらりと訪れる。「何か描いて！」とお誘いしてみる。「絵なんて何年も描いていない」それならば何年ぶりに描いて！「人前で恥ずかしい」僕も恥ずかしい！名は知らぬが顔なじみのおじさんは、「絵は描けない」僕も描けません！記念に日付をお願いします！旅行者の方までも立ち寄りビックリ！「I'm thinking about what to draw.」？英語！？プリーズプリーズ！描かれたものは神社の鳥居！

居場所と未来

普段は行わない大きなキャンバスでの共同制作。皆でワイワイと描くと予想もしない化学変化が起きる。他者の領域を越境する？侵食する？融合する？言葉ではないコミュニケーション。表現を通じての対話。

近くで路上生活されている方も参加された。誰かと話したい。誰かと繋がりたい。表現したい！今後も参加し描きたいとのこと！衣食住足らずとも、表現することや仲間の存在で、皆の心が満たされていきますように。

表現活動(可能性)を通じての社会参加。表現活動(可能性)を通じての社会への問題提起。表現することは現状を訴える、現状を変える手段ともなる。

あじいる表現活動部は始まったばかり。仲間や当事者の方々と向き合い、寄り添い楽しめる場に行きたい。

皆さまどうぞお気軽にご参加ください！今後の展開に乞うご期待です！！ 文・小和田 直幸

葬送 旅立ち

自分を貫く 仲間を送る

「ヒミツの新聞青年(冊子あじいる VOL.3)」



葬送には仲間が集まり、言葉をかけて冊子と新聞を差し入れ。

2019年5月発行の「あしあとプロジェクト VOL.3」の主人公、「ヒミツの新聞青年」原沢さんについて、この「つぶやき」でご紹介したのは昨年11月のことだった。新聞販売店の仕事に長く従事し、あじいるの仲間になってからは、お便り配送のリーダーとして作業日の重鎮をつとめた。慢性腎臓病だったが透析をせず好きなたばこを友に自由な暮らしを選んだ。そんな原沢さんの姿を伝え、「ハッピーエンドをいっしょに信じて『自分らしく生き抜く』原沢さんを見上げていたい」と結んだ。それから3か月もたたないうちに、原沢さんは、静かに旅立った。享年77歳だった。

今年1月下旬、末期の腎臓病の影響で、心臓も肺も調子が悪くなり、ドヤに暮らせなくなって入院した。緊急入院ではあったけれど、また帰ってこられる。そう、原沢さんも私たちも考えていた。けれど、一週間後、2月2日の午後6時33分に、永遠の旅路についた。

今考えれば、実は、原沢さんのお体はぎりぎりのところまで来ていたのかもしれない。

亡くなった日の前日、私は病院にお見舞いに行っていた。6人部屋の一番手前のお部屋で、お昼ご飯終わってすぐの時間だった。空っぽの食器が重なっていて、私はほっと胸をなでおろした。私の姿を認めた原沢さんの表情は明るかった。「ちょうどよかった！ドヤの支払いは遅れたくないからさあ、悪いけど、このカードでお金おろして払ってきてくれない？」月初めにシッカリ払うことに決めているようだった。律儀な原沢さんらしい。「今週退院できるみたいだからさ。昨日、歩いていい許可が出たんだよ」。そう聞いて、私は弾む足取りで病室を出た。「退院したら、すぐに訪問診療に行くね」

それから、毎日病院からの連絡を待っていたが、一向に退院の報告が入らない。2月10日まで待って知ったのは、原沢さんが、私がお見舞いに行った翌日に息を引き取っていたという事実だった。主治医の先生の報告書には、「静かで穏やかな最期でした」と書かれていた。

わたしは、何度も、何度も、考える。原沢さんには、最期はホスピスに移って、あじいるの仲間に関われながら、いつも

のようにちょっと口喧嘩もしながら、いまわの時を過ごしてほしかった。そういうハッピーエンドを私は考えていたのに、これでよかったの？

明治通りのコンビニの前を往診車で行き過ぎるとき、植え込みに腰を掛けて休んでいる原沢さんが今でも見える気がする。私は問いかける。すると、原沢さんのあたたかい声が聞こえる。「ひとりでドヤで苦しんで、さみしく逝くよりさあ、これでよかったよ」「ちゃんと月初めにドヤ代も払ったからさ、いや、助かったよ」北海道の人だからだろうか、話し方に、考え方に、独特の、おおらかで包み込むような温かさがあった。その声は、いまでも私のところに響いている。

お葬式にはたくさんの仲間が参列した。お棺に入れたのは、生涯愛したタバコ、そして毎日新聞。そこには一枚の葉が添えられており、こう書いてあった。「謹呈 新規開店 毎日新聞販売所 はらさわ屋」…新聞青年は、いつか自分の新聞店を持ちたかったであろうと考えたスタッフが、天国で営業や挨拶回りをするとき、名刺代わりに使えるように手作りしてくれたのだ。新聞店の仕事への熱意は、晩年のあじいるの作業に引き継がれ、仲間との関係もまた築かれていった。

2月16日の隅田川医療相談会の会場には、プラスチックボードと机で祭壇がつくられた。「原沢さんありがとう」と書かれたボードには、いろいろな表情の原沢さんの写真が貼られていた。活動報告会でマイクを握った時のきりっとしたお顔、土曜日の作業に没頭し、合間においしそうに一服している姿など。たくさんの仲間がお線香をあげてお別れを言っていた。

原沢さん、天国で、必ず会いましょうね。「あじいる」の仲間の縁は、切れないからね。

あじいるのレジェンドOさんが亡くなったとき、お棺の蓋が閉まる間に声が飛んだ。「みんな、つぎつぎ行くからね〜」みんなが笑って、なんだかほっとした気持ちになったことを思い出す。

私たちも「自分らしく」を貫きながら、残された人生を、互いに支えあって生きていけますように…。原沢さん、見守っていてね。 文・今川 篤子

誰もが医療に つながれる場を



医療ブースでの相談で圧倒的に多いのは薬の相談です。薬をもらいに来の方が大部分です。さまざまな事情でお渡しできるのは、購入したものやさまざまな団体の支援で供給された OTC (Over The Counter) 薬 (薬局で医師の処方箋がなくても購入できる市販薬) です。いろいろな症状に対処するための薬を準備していますが、季節ごとに、春先は花粉症対策の薬、蚊の出るような季節は虫よけと虫刺されのかゆみ止め、冬場はあかぎれなど対処の保湿剤などのニーズがあります。一般家庭では「常備薬」として、何かあった時にすぐに医療機関でなく自分で対処するための薬として、胃腸薬、風邪薬が準備されています。それぞれみなさんのお話を聞きながら、薬をお渡ししています。薬のお話を聞いている際も、居住の状況や食事の状況をよく聞きながら、また、顔色や衣服は着ていますが、見える範囲をよく見てみると、ちょっと気になる方が時々いらっしゃいます。本人はいいよと言いますが、普段相談する場所もないだろうしせっかくだからと説得し診察をさせていただきます。その場ですぐに対応できることは多くはありませんが、医療機関につないだほうがよさそうな場合は、生活相談ブースと連携しながら相談を進めていきます。また、無料低額診療を行っている医療機関に紹介状も記載したりします。しょうがないと思っている方々に医療へのアクセスを提供するという点では単に要望のある薬だけを渡すだけではないと思って活動しています。

さまざまな自覚症状があり、医師と相談したいという方々も相談にいらっしゃいます。その症状に応じて必要な方向付けを行います。医療機関を勧めてもそこまではいいやということでその場の対応のみで済ませざるを得ない場合も少なからずあります。医療は受けたいけれども生活保護という枠組みの中で傷ついた経験をお持ちの方も多く、その部分のトラウマを解消して健康管理につなげることは難しいと感じます。生活保護が憲法 25 条に保障された仕組みの中で作られた制度にも関わらず、実際に利用する段になるとさまざまな障壁が存在するという事実は厳

しく問い直さなければいけないと思います。

また、生活保護を取得し通院している医療機関があるかたの相談を受けることもあります。薬をもらっているがなかなか自覚症状がよくならないとか、この薬を飲み続けてもよいものかというような内容です。じっくりお話をうかがうと、通常の診療の中ではなかなか質問する時間がなかったりすることがあるようです。しっかり時間をかけて状況をうかがうと治療内容に大きな問題のないことがほとんどです。大丈夫ですよというメッセージを伝えると安心しましたと帰って行かれます。自分の診療も振り返りながらですが、診察室でじっくり話ができるような診療報酬の仕組みになってほしいと思います。

医療ブース発の取り組みの中で、足湯を最近はじめました。他団体でも取り組んでいるという情報を得て開始したのですが、非常に好評です。実は診察ブースの中で診ている際に、足が非常に汚いことがずっと気になっていました。蜂窩織炎といって不潔な足の傷から細菌が皮膚に入る状態になる方に時々遭遇もしました。数こそ多くはありませんがそのような方が一人でも減ることがこの活動でできればと考えています。この活動の中で、足の爪切りというのは多くの人にとって、かなり難しいものだわかりました。多くのニーズに応えることができない実情もありますがフルコースのフットケアだけでなく、足の爪切りコーナーもありかなと考えています。

医療相談というチャンネルでみていますが、健康な生活を維持するのは、医療が充実するだけではだめで、衣食住が確保されること、働くことができること、孤立しないことなど、医療以外のさまざまな要素が満たされてこそ実現できることを改めて感じます。健康の社会的決定因子 (SDH) を肌で感じる活動になっていると思います。 文・下 正宗

＊保健所の指摘により、医療相談会でのお薬配布・診察については
2025年5月から休止。
大切な命を守るため、医師による「健康相談」として開催します。

2024.10→2025.3

隅田川医療相談会

あじいるの6つの取り組みから
「隅田川医療相談会＋フードバンク」の報告
皆さまのカンパ・寄付により実施しました！

報告・池上 哉美



夜回り

医療相談会の前日、浅草・上野の2か所を回る
路上で寝ている方たちに、毛布や相談会の案内チラシを配りながら、声をかけて回る

浅草 155名 上野 286名

2024年10月～ 2025年3月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
夜まわり(浅草)	28	30	22	26	26	23	155
夜まわり(上野)	58	49	44	49	47	39	286

医療
相談会

毎月第3日曜日隅田公園山谷堀広場にて開催

医療相談	21名	医師・看護師による健康相談。血圧などの簡易的な検査も実施
紹介状	4通	20代：3名 30代：1名 40代：4名 50代：2名 60代：4名 70代：5名 80代：1名 記録無：1名
お薬	243名	相談に基づき、内容により3日分の市販薬を配布 医療従事者が担当
鍼灸	61名	身体の不調をききとり、鍼灸師が施術を行う
散髪	82名	会話を心がけながら、髪の毛をバリカンで刈る
フットケア	68名	足を洗ったり爪を切ることが難しい方へのフットケア
ご飯	717名	仲間のご飯をみんなでつくる！
生活相談	13名	生活に関わる様々な問題や、生活保護申請・受給後の相談
アパート相談	0名	生活保護受給後のアパート転宅等、住まいに関する相談
法律相談	1名	債務整理その他、法律家による相談



フォロー
活動 5名

相談に来た方たちの中で、生活保護の
利用を希望する方や、継続的な治療が
必要な方の医療機関・福祉事務所への
同行を行う。入院した方のお見舞いや、
継続的な相談の対応

一般社団法人あじいる 2024年度 会計報告

荒川 茂子

寄付金	5,285,585
年会費	414,000
毎日新聞社助成金	800,000
行事参加費	349,200
冊子あじいる売上	25,550
あうんからの委託費	89,312
バザー売上	17,450
受取利息	450
収入合計	6,981,547
前年度繰越金	10,319,549
	17,301,096

家賃	1,080,000
車両・事務所共同利用分担金	240,000
電気代	72,571
配送・運搬	164,197
作業日経費	122,350
事務消耗品	136,690
田んぼ管理料	800,000
米 仕入代	848,600
医療相談会 炊き出し経費	487,846
医療相談会 レンタカー代等	236,367
医療相談会 薬代等	336,287
米作り経費	813,671
生活支援金(渡航費含む)	686,982
雑費	7,300

旅費交通費	52,840
通信費	177,848
ニュースレター等作成	174,350
撮影料	631,625
振込手数料等	1,815
ノートパソコン	109,985
消耗品	26,705
報告会 経費	124,081
行事飲食代	114,140
宮本さん・原子さんをしのぶ会	34,245
会議時食事代	13,000
支出合計	7,493,495
次年度繰越金	9,807,601
	17,301,096

助けてください **お米が足りない!**

SOS

必要とされるお米が増えています。

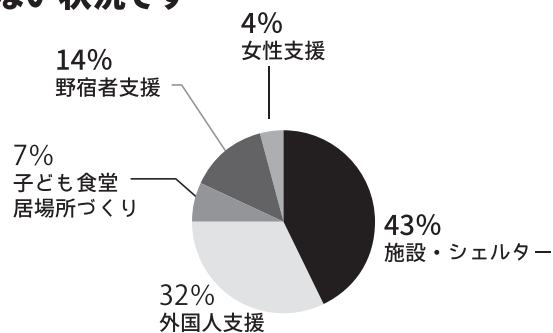
お米のカンパが減り、皆さまからの寄付でお米を購入していますが

現在、新規団体の要請は休止せざるをえない状況です

ご寄付・カンパをよろしくおねがいします！

フードバンク
2024.10→2025.3

29団体へ **5,228kg**のお米を
届けることができました



お米の配送状況

(2024年10月～2025年3月)

単位: Kg

登録団体名(受け渡し先)		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
施設・シェルター	かわさきキャンプラース・アクションポート	80	80	80	80	80	60	460
	サークルドア	90	90	90	90	90	80	530
	ホームとらむ	0	5	5	10	10	0	30
	みのわマック	100	100	100	100	100	80	580
	友愛会	80	100	140	140	100	100	660
外国人支援	カトリック東京国際センター	150	150	0	0	0	100	400
	北関東医療相談会	200	0	200	0	200	0	600
	難民支援協会	0	0	50	150	100	80	380
	反貧困ネットワーク	20	21	25	24	20	27	137
	REN	30	30	30	30	30	30	180
	足立インターナショナル・アカデミー	10	0	0	10	0	10	30
	あらにん会	0	10	10	0	15	15	50
	オイコスプロジェクト	0	10	10	0	0	0	20
	子どもの居場所イン町屋	15	15	15	15	15	15	90
	汐入診療所	5	0	5	5	5	0	20
	タヴェルナ～小さな食堂～	20	0	0	0	0	20	40
	東京ふれあい医療生協	0	0	0	0	0	20	20
	東日暮里子ども食堂	10	10	10	0	10	10	50
	フロイデ	0	0	0	30	0	0	30
	町屋ふれあい館	0	0	5	5	5	0	15
野宿者支援	浅草聖ヨハネ教会	45	30	50	0	40	0	165
	足立野宿者支援の会さくら	30	30	35	30	30	30	185
	大田幸陽会	15	15	15	0	15	15	75
	ほしのいえ	0	0	0	7	2	0	9
	末日聖徒イエスキリスト教会	30	30	30	30	30	20	170
	山谷夜回りの会	20	0	0	0	0	0	20
	あじいる	14	17	17	17	17	10	92
女性支援	女性ネットSaya-Saya	20	20	10	20	30	20	120
	女性の家ヘルプ	0	0	30	20	20	0	70
合 計								5,228

お米のカンパ受取&購入状況

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1,257	138	694	310	150	76	2,625

現在、米不足により、新規団体の登録を一時休止しています。

カンパのお願い

一人ひとりの生命を支える
サポーターになる

□皆さまからの会費・カンパに支えられて活動を続けています

お米や食品を備蓄する「低温冷蔵庫」の維持費／物資運搬の車両・燃料費
医薬品、備品の購入、共同炊事の経費、医療機関・福祉事務所への交通費
広報物の印刷費用、事務所経費などに使わせて頂きます。

お米が足りません
SOS

お米

米の不足により

新規団体登録は一時休止になっています

カンパ・寄付をお待ちしています

食品

お米支援をお願いします。24団体へ届けるためご協力を

- ・3年以内のもの
- ・玄米・白米ともに受け付けています
- ・外国のお米（長粒米）はご遠慮ください
- ・大口（100kg以上）の場合は事前にご連絡ください

・賞味期限が2ヵ月以上残っているもの

・日持ちするもの

レトルト食品、缶詰、調味料、乾麺、非常用食品など

物資

寝袋、毛布、カイロ、新品の日用品

＊靴下、男性用下着、タオル、カミソリ、石けん

湿布薬、小型ラジオ、テレホンカード

未使用切手、ハガキ。

お願い

■受け取ることができません！

×賞味期限が2ヵ月未満のもの

×開封後の食品

×生鮮食品

×商品説明が外国語のみのもの

お送り頂く際の送料はご負担いただきます。
ご了承ください。

会員

賛助会費 一口：3,000円（年間）

参加

ボランティア

一緒に活動して仲間になる

振込先 □銀行振込

ゆうちょ銀行 ○一九店

口座名義：一般社団法人 あじいる

当座預金：0673914

□郵便振替

口座番号：00110-0-673914

口座名義：一般社団法人 あじいる

医療相談、夜回り、登録団体への食料の配送作業
イベントへの出店など、社会人だけでなく、学生など
どなたでも参加いただけます。

初めて参加される場合には、事前にご連絡ください。

送付・お問い合わせ先

一般社団法人 あじいる

〒116-0014 東京都荒川区東日暮里1-36-10 あうん気付

TEL:03-5850-4863 FAX:03-5850-4864

Email:aji_iru@yahoo.co.jp

*送付を希望しない方はご連絡ください

応援して
ください



facebook 情報発信しています!
Twitter @agile_2019